

第1回 株式会社 小野工業所様



代表取締役の小野友子さん（右）と顧問の中原征四郎さん（左）



創設者の小野留吉氏像

小野工業所さんは日本の建築板金の老舗であり、各地の神社仏閣はもとより、皇居や御用邸、ご皇族方のお住まいのお仕事もされているという名門でいらしゃいます。チタンの適用ということでもいち早く取り組み、北野天満宮宝物殿をはじめ、数々の素晴らしい仕事を手掛けてこられました。

九州でチタン本瓦葺を

——チタン建材は、神社仏閣や個人邸にもかなり使っていただいています。小野工業所さんの施工事例をご覧になった施主さんが、チタンでこれだけ葺けるのかということでご興味をもっていたいただいたケースも多いですよ。

顧問 お寺さんの場合は、一般に費用を檀家さんが負担されます。このご時世で総代さんも寄付を集めるのがたいへんなようで、中には50年もてばいいから、コストは抑えたいというお考えの方もいらっしゃいます。それでもやはり、檀家さん総代さんによくご理解いただいて、同じやるならいいものを、長持ちするものを、ということで銅やチタンの仕事をいただくということが私どもの実績につながっていると感謝しています。まあご住職ご自身は、たいていいいものを希望されますね。

——ご住職様はそうですね。ところで、近ごろはいかがでしょう。

顧問 現在、九州で大きな物件に取りかかっています。お寺の本堂を、銅の一字葺からチタン本瓦葺に替えます。しかも緑青色で施工しますから、素晴らしいものになると思いますよ。施工面積も1400平米くらいになります。

——それは是非拝見したいですね。

下地工事が終わって、8月から板金工事にかかります。10月くらいには少し出来上がってくるかと思うので、みなさんにも是非ご覧いただきたいですね。

やはりチタンもどんどん扱いやすくなっていますし、今回の物件では、新日鐵さんがさらに加工性にすぐれた材料を開発されたことが大きいですね。もちろんわれわれも、それにあわせて、いろいろと研究を重ねました。

——他にも今われわれは、専門のメーカーさんと共同で、役物などもいろいろ開発しています。こういう取り組みも知っておいていただければと思います。

文化財へのアプローチ

——チタンもいろいろな質感の製品ができていますし、加工ができる範囲もかなり広がってきました。そういう中で文化財クラスの建物にもチタンが適用できないかと考えています。

顧問 実は今、世界文化遺産にも登録された奈良県のお寺の改修をやっていますが、私どもでも、チタンはどうですか、と言って持って行きました。しかし、急に持って行っても予算の関係がありましたので。

——それは、予算の壁の方さえクリアできれば、ということなのでしょう。

顧問 そのお寺は元々瓦屋根で、世界遺産ですから本来は銅やチタンには変えられない。ところが解体修理をして、瓦を載せたのではもうもたない、何か軽いものにしようという話が出たんです。こういうケースは本当に稀の稀の稀ですよ。ならば私どもとしてはチタンはどうかという話をしたんですけど、すでに予算が組まれた後でした。最初から知っていればいいのです



小野工業所様施工事例 北野天満宮宝物殿

が、われわれのところに話に来るまでにタイムラグがあるんですね。

——専門家の方々は、基本的には文化財は正真性が第一だとおっしゃいますね。本当に昔そのままの通りにやりなさいと。ただ、今のお話のように、最初の通りに瓦を載せたくても構造上弱くなっていて難しいとか、あるいは檜皮やコケラは、もういい材料が手に入らないし、たびたび葺き替えるだけの余裕はない。国も予算は付けるにしても、毎年文化財の指定物件が増える中で、いずれ予算を圧迫し、残せるものも残せなくなるのではないかと、という声も耳に入ってきます。

そういう中で、軽くて耐久性のあるチタンが使えるようになれば、文化財保護という面でも1つの貢献ができるのではないかと思うのですね。

顧問 文化財の修復の場合は、萱が採れないなら、萱場を作ってでもというところもあります。今日明日変えていこうと言っても難しいでしょうね。瓦や檜皮、コケラを銅にしていくにも長い時間がかかっています。ただ、こういうものは、周りから少しずつ変えていくことが大切だと思いますね。

チタン屋根でもパイオニア

顧問 チタンの場合、資源はあるんですね。

——原石は豊富にあります。埋蔵量で言いますと、チタンは4番目に多い金属です。

社長 昨今の原材料高で、銅の代替として何かもう少し安くなるものはないですか、というお話をいただくことがございますが、私が申しますのは、いっそチタンはいかがですか、という営業もいいんじゃないかと。チタンという高級イメージは変わることなく、むしろその建材としての普及とともに、ますます着目されているにもかかわらず、他材の高騰の中にあって以前は

ど突出した価格ではなくなっています、と。

顧問 私どもも決して銅でなきゃいけないというのではないんです。ご存知のようにチタンにも早くから取り組んでいます。確か最初にチタン屋根を葺いたのは東京駅八重洲口からすぐの所の駐車場の丸い空気抜き。あの屋根を最初に葺いた。北野天満宮の前にも、御殿場の神社でチタン屋根を葺いています。やはり私どもとしても、チタンはこれからの素材であると考えています。

社長 以前はチタンをお勧めしますと、「僕のゴルフクラブはチタンだけど、こんなに小さいのにすごい高い。屋根に使ったらたいへんでしょ」と言われたりしましたので、「建材はそうでもございませぬ。銅板よりは多少お値段は張りますけど」とお答えしていました。でも、ご住職様や宮司様には建築に興味のおありの方が多い。勉強もされていて、とても詳しくて。やはりそういう方は銅板ではない何か変わったものはないかとおっしゃいます。だから私もチタンいかがですかとお勧めしやすい。今はそういう時代ですね。

この世界は信用第一

——営業をされる場合、リピーターさんが中心でしょうか。

社長 やはりだいたい決まったお得意様です。ある程度知っていただいていますので、設計事務所からご相談なり設計協力のご依頼を受けることが多いですね。——リピーターがずっとあるということは、後々クレームがないということですね。

顧問 まったくないとは言えませんが、あっても迅速に対応しています。ですから「小野に任せておけば文句も言えるな」というところもあると思います。とにかく私どもがいちばん気をつけているのは、何かあっ



小野工業所様施工事例 智清寺

たときに対応をすぐする。1週間も2週間もほっておかないで、まず飛んで行って話し合っ、じゃあ何日後にやりますとか、そういう話をする。おかげさまで、九州でも四国でも山陰でも山陽でも、うちを使ったことのあるお客さんは、やっぱり小野工業所に、とってくださいます。

でも、場合によっては、いろいろと難しいこともありますね。たとえばお宮でもお寺でも、しっかりした設計事務所が入っていると、責任をもっていい仕事ができるだけの予算を組まれますが、社寺の経験のない設計者が入ったお寺だと必ずしもそうではなくて、これじゃあちょっとお寺にならないというような仕様になっていたりします。かといって社寺建築の専門業者が、「予算がないからこんなものでいいだろう」とやってしまったら、たちまち信用をなくしてしまう。坪200万円の仕事を50万円でやれというから50万の仕事をやったんだ、なんて話は通用しない。金額がわからなくても「何だい、小野はこんな仕事しかしないのかい」ということになってしまう。そういう噂は世間に回るのが早いんです。

——やはり小野工業所さんは、チタンでもそうやって責任をもって仕事をされている。見る人が見ればわかりますね。お客さんに写真を見てもらっても、「いいねえ、どこが作ったの」となる。小野さんだと言うと、「うん、なるほど」と。

社長 世田谷の傳乗寺様で五重塔をさせていただいたときも、「チタンの五重塔ができたというから見に行ったんだ」とおっしゃいますので、「うちもお手伝いさせていただいて本当によかったです」と申し上げますと、「やっぱり小野さんでやっていたの」って。ゼネコン各社の営業部長さん3名の方々が、そうおっしゃってくださいました。この傳乗寺のご住職様も建築に熱心な方で、「銅板の色とはちょっと違った色もいいかもしれ

ないね」とおっしゃっていて、ご計画の前からご相談を承っておりました。

技術の継承は社の使命

——社員さんの中には「現代の名工」に選ばれた方もいらっしゃいますね。そういう技術を若い人に伝承していくということでは、いかがでしょうか。

社長 社としても、それがやはり使命でもあると思っておりますから。建築学科ですとか、工業高校、専門学校ですとかを出た人を毎年何名かずつ採用して、親方に就けています。

一時は、どうしようというくらい人材の確保がたいへんでしたけれど、それだけはやめないようにと、毎年新しい人を採用しています。

——今の若い人で、現場の仕事をやる人が少なくなっていると聞きますが。

社長 やはり好きな人はいるんですね。ただ、若い人たちを育てる場合に配慮が必要なのは出張現場です。今の若い人は、昼間も親方と一緒に、夜寝るのも一緒に、朝ご飯食べるのも一緒に、それがどうも苦手なようですね。入社2年目くらいまでは、自宅から通えるよう都内の現場に配属するようにしています。

顧問 新婚さんを出張で出すのも気を遣いますよ。

社長 私どもでは、会社で面倒を見て月に2回は週末に帰れるようにしています。今は1人1部屋という環境で育っていますから、昔みたいに親方と一緒に、見て覚えろ、と言われても続きません。

中には途中で辞めたいという人もおりますが、辞めても戻ってくるんです。戻ってきたときにはもう定着します。やはり隣の芝はよく見えるようですが、実際に出てみると、そうじゃないということがわかるんです。私も辞めたいという人を無理に引き止めはしませ



小野工業所様施工事例 感應寺

んが、他の社員には「戻りたいときは戻れる環境にしておいてね」と頼んでおきます。

顧問 ずっとうちで育つよりも、むしろ1回くらい外に出て世間を見た方がいいですね。不平不満があるようでも、出てみると、やっぱりうちの方がよかったと。そういう経験も必要だと思います。

——今はやり直しのできない社会だから、いろんな問題が起こっている。だけど小野工業所さんの場合は、再チャレンジできる社会ですね。やっぱり若い人を育てていかないと、伝統技術が次の世代に残らないわけですから、大切な話ですよ。

本日はそういう人材育成の話まで含めて、とてもいいお話を伺いました。これからもよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

〈株式会社 小野工業所様ホームページ〉

<http://www.onokougyosho.co.jp/index.html>



小野工業所様施工事例 寶泰禅寺



小野工業所様施工事例 傳乗寺五重塔